

山中康司「テクニカル分析に強くなるオートチャーティスト」 更新日：5月31日



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

## ■オートチャーティストとは

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

## ■先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。前回も選択肢が少ない中で USDJPY 以外はマイナーな通貨ペアとなりました。

（1）USDJPY の売り（シグナル点灯 5月23日）TP=108.03、SL=111.40

先週執筆時点のレートが 109.718、その後のレンジは 108.11～109.76 とイタリア政局の混乱を背景としたリスクオフ相場が円買いの動きとなりました。29日には一時 108.11 レベルへと水準を下げたことで、上昇相場のスタート地点まで戻す動きを見せましたが、わずかに TP に届かず、その後はリスクオフの巻き返しの動きから 30日には一時 109 円台に乗せる動きも見られました。今回は執筆時点のレートで成行決済としますので 108.575 での利食いとなり、+114.3pips の利益となります。

(2) USDSEK の買い (シグナル点灯 5 月 23 日) TP=8.8545、SL=8.6387

先週執筆時点のレートが 8.75336、その後のレンジは 8.67366~8.9864 と、ドルの動きとしてはドル買いとユーロドルでのユーロ売り (ドル買い) に引っ張られた面が大きかったようです。TP の水準には 29 日に到達していますが、ドル買いとその後のドル売りの動きもほぼユーロと同じ動きでした。北欧通貨はユーロペグの DKK はもちろんですが、他の SEK や NOK もユーロの動きに追随しやすい傾向があります。USDSEK は大台が大きいいため pips の数字ほどの利益という印象では無いものの、+1011.4pips の利益となりました。

(3) USDMXN の売り (シグナル点灯 5 月 23 日) TP=19.1828、SL=19.9357

先週執筆時点のレートが 19.65975、その後のレンジは 19.44831~19.87951 と、執筆時点直後からじり安となったものの週明けからは買い戻しの動きとなり、ほぼ行って来いで執筆時点をやや上回る水準となっています。こちら成り行きで 19.80151 での決済となりますので、桁としては -0.14176。pips 的には大台が二桁の通貨ペアですから -141.8pips の損失です。

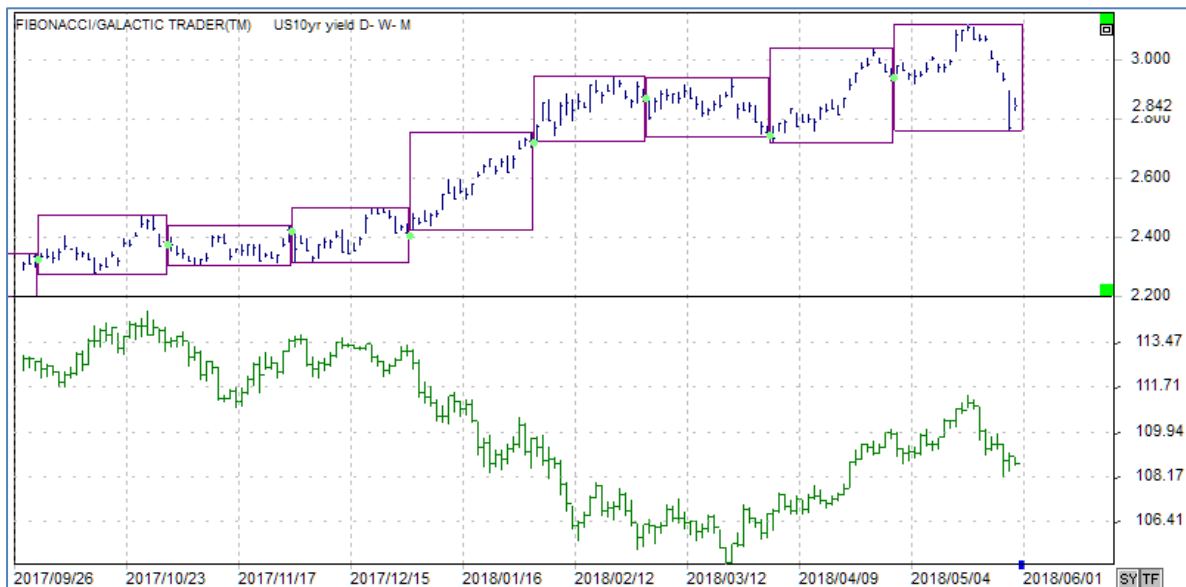
今週も先週に続き 2 勝 1 敗ですが、(1) と (2) とともにある程度の利益が確保でき、選択肢が無かった割には好結果だったと言えるでしょう。

## ■米金利とドル円

今週 29 日までイタリアの政局不安から大きくユーロ安が進みました。このユーロの下げの中でイタリアの資産はリスク資産と捉えられイタリア国債は暴落の様相を呈しましたが、いっぽう世界で最も安全な資産と考えられている米国債は大きく買われたことで、結果として米金利は大きく下げる動きとなりました。

米国 10 年債の利回りは、17 日には 3.115% まで上げていましたが、29 日には 2.759% まで下げ、昨日の NY 市場では 2.842% で引けています。長期金利が 0.356% も下げるといえるのはかなりの大きな動きと言えますが、米国債の安全資産としての面が強く出た結果と言えるでしょう。

ここで、米国債の利回りとドル円の動きを日足で比較してみましょう。上段が 10 年債利回り、下段にドル円を表示してあります。29 日の 2.759% という利回りは 4 月初めの水準で、その時のドル円は 106 円台前半から 107 円台前半での推移となっていました。4 月以降の長期金利とドル円相場は正の相関となっていました。今回の動きではドル円は追随してはいたものの、水準的にはまだ距離があるという印象です。



もちろん当時と今とではドル円を取り囲む環境にも違いはありますが、米金利低下については今まで以上に注意しておきたいものです。

## ■今週の特徴

今週は久しぶりに選択肢が多い週で 70%も含め確率 69%の中からだけで選択できそうなので、高確率かつチャートパターンの的にもよさそうなものをピックアップすることとしました。また 70%の確率を出しているのが USDSGD とアジア通貨なのでアジア通貨から 2 つ、そしてここに来て大きな値動きを見せているユーロ絡みから EURJPY をピックアップします。

共通点としては上昇チャンネルの下抜け、下降チャンネルの上抜けといったシンプルなチャートパターンで、どれもまだシグナルが点灯してから時間経過が少なく（全て 30 日欧州市場でのシグナル）、その方向への動きが目立っていないものを選んでいきます。

ようやく豊富な選択肢の中から選ぶことが出来ますが、その分選択眼が問われますが順に見て行くこととしましょう。

## ■今週のピックアップ

### (1) USDSGD の売り



チャートパターンとしては「上昇チャンネル」の下抜けによる USD 売りです。シグナルが出た 30 日 16 時から半日にしか経過していません（4 時間足の数で 3 本）し、執筆時点の水準もシグナル点灯の水準と同水準となっています。アジア通貨の中でも SGD はあまり大きな動きはしない通貨ペアのひとつではありますが、欧州通貨ではドル買い、円やスイスフランといった避難通貨ではドル売りと最近はドルの方向性がはっきりしないこともドルの対アジア通貨はテクニカルに反応しやすいのではないかと考えました。シグナル点灯後 13 時間以内にグレーのゾーン上端にあたる 1.3361 近辺まで下落する可能性が指摘されています。

戦略：USDSGD の売り（シグナル点灯 5 月 30 日）執筆時点 1.33956

TP=1.3361、SL=1.3484

### (2) AUDHKG の買い



チャートパターンとしては「下降チャンネル」の上抜けによる AUD 買いです。パターンとしては拡散型（幅が広がっていく）のチャンネルのため、通常のチャンネルやチャンネルの幅が狭くなっていくウェッジに比べると、パターンを抜けた時の動きはあまり目立ったものとはなりにくい可能性はあります。こちらはアジア通貨 HKD は売りとなっていますので、先ほどの SGD とは方向性が異なりますが、AUD が他の複数の通貨ペアに対しても 68%以上の確率で買いとなっていたため、AUD 買いに着目したピックアップとなります。AUDHKG の買いはシグナル点灯後 13 時間以内にグレーのゾーンの下端にあたる 5.9604 近辺まで上がる可能性が指摘されています。

戦略：AUDHKG の買い（シグナル点灯 5 月 30 日）執筆時点 5.9375

TP=5.9604、SL=5.8659

### （3）EURJPY の買い



チャートパターンとしては「下降チャンネル」の下抜けによる EUR 買いです。チャートパター

ンとしてもかなりきれいなチャンネルの上抜けであると同時に、イタリアの政局不安で 29 日までかなり大きく下げて来たことから、短期的にはいったんリスクオフの巻き返しによる買い戻しが出やすいのではないかと考えられます。また今回は 6 月 1 日に米国雇用統計もありますので、ストレートのドル通貨ペアは極力避けました。USDSGD は対ドルの選択ですが、前述の通り大きくは動きにくいことから、影響も少ないと考えられます。シグナル点灯後 17 時間以内にグレーのゾーンの下端にあたる 127.59 をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：EURJPY の買い（シグナル点灯 5 月 30 日）執筆時点 126.649

TP=127.59、SL=124.62

#### 【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。

■本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。